

平成 19 年 9 月 13 日

各 位

神奈川県川崎市高津区坂戸 3-2-1  
オンコセラピー・サイエンス株式会社  
代表取締役社長 富田 憲介  
(コード番号 4564 東証マザーズ)  
(問い合わせ先) 管理本部長 山本 和男  
電話番号 044-820-8251

新生血管阻害剤OTS102 第 I 相臨床試験投与開始のお知らせ

当社が実施いたしております新生血管阻害剤 OTS102 の第 I 相臨床試験におきまして、第 1 例目の投与が開始されましたので、お知らせいたします。

第 I 相臨床試験ではがん患者の方々へ OTS102 の投与を実施し、本剤の安全性の確認を行います。

今後は、治験計画に従って一定数の患者の方々への投与を行い、来春には悪性腫瘍(がん)に対する第 I 相臨床試験を終了することを目指しております。

悪性腫瘍(がん)は、際限なく増殖して周辺の正常組織を破壊するとともに、近くにあるリンパ節や遠く離れた臓器にも転移します。がんが、このように成長して生命を脅かすような存在となるためには、自らを養うための酸素や栄養素を運ぶ血流が豊富であることが必要です。そこでがん細胞は、いろいろな因子を分泌することにより新しい血管を増やす性質を持っています。これを妨害して腫瘍の成長を阻むことができるのが新生血管を阻害する薬剤(新生血管阻害剤)で、新しい考え方のがん治療薬として近年注目を集めております。

OTS102 は上に述べた新生血管阻害剤の一種ですが、これまでに他社にて開発されてきたものとはまったく違う作用機序を利用したものです。腫瘍の血管新生に関わる重要な遺伝子であり、がん細胞の生存と成長に必要な新生血管の内皮細胞に高発現し、正常組織にはほとんど発現していない Vascular Endothelial Growth Factor Receptor 2 (VEGFR2) というタンパクの一部からなる薬剤です。その投与により腫瘍への栄養を供給している新生血管内皮細胞に対する強い免疫反応が誘導され、抗腫瘍効果を示すことが動物実験で示されています。また、がん周辺には VEGFR2 を持つ新生血管が多数存在することが多い反面、通常の成熟化した正常血管は VEGFR2 をほとんど持たないことから、OTS102 はがん増殖に関与する血管に対してのみ働く、副作用の少ない薬剤になることが期待されております。

以 上